

印刷機の 簡易マニュアル

(詳細は別冊「取扱説明書」参照)

RISOGRAPH SF635

2020.05.01

学生支援課

目次

1. 使用ルール、操作手順(概要)	3
2. 印刷用紙について	4
3. プリントの範囲について	5
4. 各部の名称と働き(給紙側)	6
5. 各部の名称と働き(排紙側)	7
6. 操作パネル	8
7. プリントの流れ(製版と印刷)	9
8. プリント前の準備①(給紙台と用紙のセット)	10
9. プリント後の片付け②(給紙台の閉じ方)	11
10. プリント前の準備③(排紙台のセット)	12
11. プリント後の片付け④(排紙台の閉じ方)	13
12. 紙原稿をセットする	14
13. 紙原稿をプリントする	15
14. 印刷物を取り出す	16

使用ルール、操作手順(概要)

【使用ルール】

- 輪転機(印刷機)の予約受付はネットから受付ます。
- 使用時間は、お昼休みの12時00分から13時30分と授業終了後の18時00分から19時30分までです。
- 印刷できる物は楽譜・課外活動に関する内部資料・台本等とします。
- 印刷できない物は授業等で使用するノート等課外活動に関係のない物、**ビラ**、販売目的の印刷物
- 原稿1枚(1頁)当たりの印刷枚数が100枚以上のものに限り使用する。
- 原稿が全体的に黒すぎるものは印刷しない。
→ マスターがもろく、インクが多量に出て、故障の原因となる。

【操作手順(概要)】

(本機はコピーではなく、孔版印刷機です。)

- ①右側の電源スイッチを入れる(通常はONになっている)
- ②「ウェイクアップ」ボタンを押す(スリープ状態のとき)
- ③利用カードを差し込む
- ④タッチパネルの「カウンター表示」をタッチし、「トータル」・「マスタートータル」の数値を記録する
- ⑤印刷用紙をセットする
- ⑥原稿をセットする
- ⑦「スタート」ボタンを押す
アイドリング、製版終了後、1枚プリントされます
- ⑧印刷枚数を入力し、「スタート」ボタンを押す(印刷が始まります)
- ⑨印刷終了後、タッチパネルの「カウンター表示」をタッチし、「トータル」・「マスタートータル」の数値を記録する
- ⑩利用カードを抜く
- ⑪窓口でカードキー一式を返却する
webにて報告する

印刷用紙について

用紙について

■ サイズ・重さについて

使用可能な用紙は以下の通りです。

サイズ	100×148 mm ～ 310×432 mm
重さ	46～210 g/m ²

- オプションの排紙台 W 装着時は、[用紙サイズ登録]を設定することで310×555mmまで使用できます。ただし、紙質や用紙サイズによっては、紙揃えが安定しない場合があります。
(☞ 113 「不定形の用紙を登録する [用紙サイズ登録]」)
(☞ 53 「不定形の用紙を使う [用紙サイズ]」)
- 本機では、以下の用紙が定形サイズとして検知されません。

A3☐	297×420 mm
A4☐	210×297 mm
A4☒	297×210 mm
A5☐	148×210 mm
B4☐	257×364 mm
B5☐	182×257 mm
B5☒	257×182 mm
B6☐	128×182 mm
ハガキ☐	100×148 mm

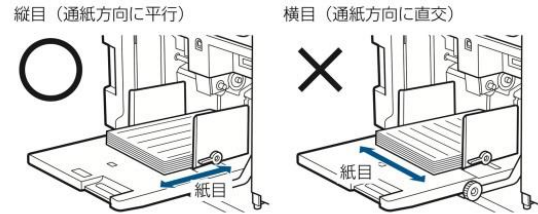
- 用紙は、機械の性能やインクの特性を十分に活かす「理想用紙」、「理想環境用紙」の使用をおすすめします。詳細については、本体お買い上げの販売会社（あるいは保守・サービス会社）にお問い合わせください。
- 本機の仕様で定められている範囲を超える用紙をご利用いただく場合は、その紙に対しての通紙および印刷に関しては製品保証対象外となります。



▶ 本機仕様内の「用紙サイズ」および「用紙の重さ」であっても、紙質・環境・保管状態などにより通紙できない場合があります。あらかじめ、ご了承ください。詳しくは、販売会社（あるいは保守・サービス会社）にご相談ください。

■ 紙づまりや給紙不良を避けるために

- 用紙は、紙目（繊維の流れ）が通紙方向に沿うようにセットしてください。
紙目が通紙方向に直交する方向ではコシが弱くなるため、紙づまりの原因となることがあります。



紙目を確認するには、紙を裂いてみると分かります。まっすぐに裂ける方向が、紙目です。



紙目に沿っていると、まっすぐに裂ける。



紙目に沿っていないと、まっすぐに裂けない。

- 裁断が悪い用紙や表面が粗い紙（画用紙など）は、よくさばいてから使用してください。
- 使用する用紙によっては機械の使用時に紙粉が発生することがあります。清掃、換気を充分に行うように心がけてください。
- 厚紙（画用紙など）や、表面が滑りやすい用紙を使用するときは、給紙圧レバーや排紙台の紙揃えプレートを調節してください。
(☞ 28 「プリント前の準備」)
- なるべくカールしていない用紙を使用してください。やむを得ず使用する場合は、山なりになっている面を上にしてセットしてください。



- 印刷物の天方向（排紙方向の先端）に余白が少なすぎる場合や、天方向に密度の濃い画像がある場合に、用紙がドラムに張り付いてしまうことがあります。その場合は、天方向に余白ができるように印刷位置を下げるか、原稿の天地を180度回転して製版し直してください。

■ 用紙の保管について

用紙は湿気の少ない場所に保管してください。湿気を含んだ用紙は、紙づまりや印刷品質の低下の原因になります。

プリントの範囲について

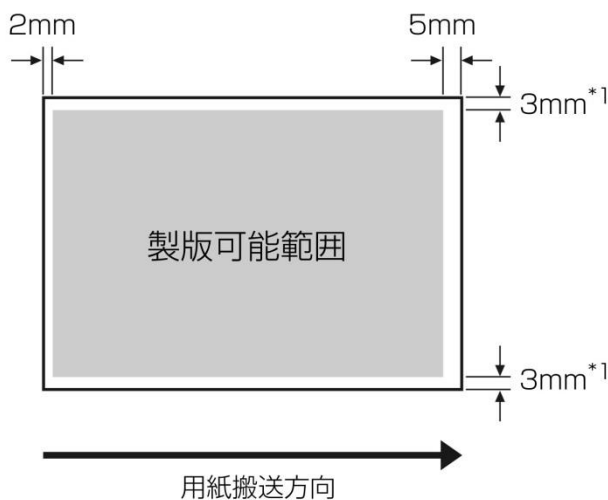
■ 最大印刷範囲

本機で印刷できる最大範囲は以下の通りです。

機種	最大印刷範囲
SF935/635	291×413 mm
SF625	251×357 mm

■ 製版範囲

給紙台にセットした用紙サイズで、製版範囲が決まります。製版範囲は、用紙サイズに対して、下図の余白を除いた範囲です。



* 1：定形サイズ的用紙を使用した場合の数値です。不定形サイズ的用紙を使用した場合は、5mmになります。

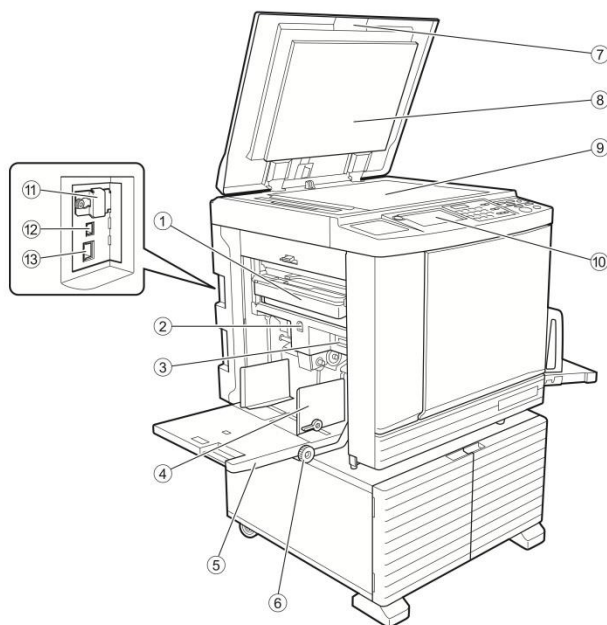
原稿は、上記の余白を考慮して作成してください。



- ▶ 大きな用紙をセットしても、製版範囲が最大印刷範囲を超えることはありません。
- ▶ [フルサイズ製版] (P. 54) を使っても、用紙の先端から 5mm の範囲は製版されません。

各部の名称と働き(給紙側)

給紙側



① 排版ボックス (📖 135)

排版されたマスターを収納します。

② 給紙台上下ボタン (📖 28)

用紙を載せ換えたり追加したりするときに、給紙台を上昇または下降させます。

③ 給紙圧レバー (📖 28)

用紙の紙質に合わせて、給紙の圧力を調節します。

④ 給紙フェンス (📖 28)

用紙の幅に合わせてスライドさせ、用紙のずれを防ぎます。

⑤ 給紙台 (📖 28)

用紙を載せます。

⑥ 左右位置調整ダイヤル (📖 68)

左右方向の印刷位置を調整します。

⑦ 原稿台カバー (📖 31)

原稿をセットするときに開閉します。

⑧ 原稿パッド (📖 143)

⑨ 原稿台ガラス (📖 31)

原稿を下向きにセットします。

⑩ 操作パネル (📖 21)

各種操作を行います。

⑪ メモリーカードスロット (📖 36)

[ホールド] 機能を使うためのメモリーカードを装着します。

⑫ USB コネクター (📖 12)

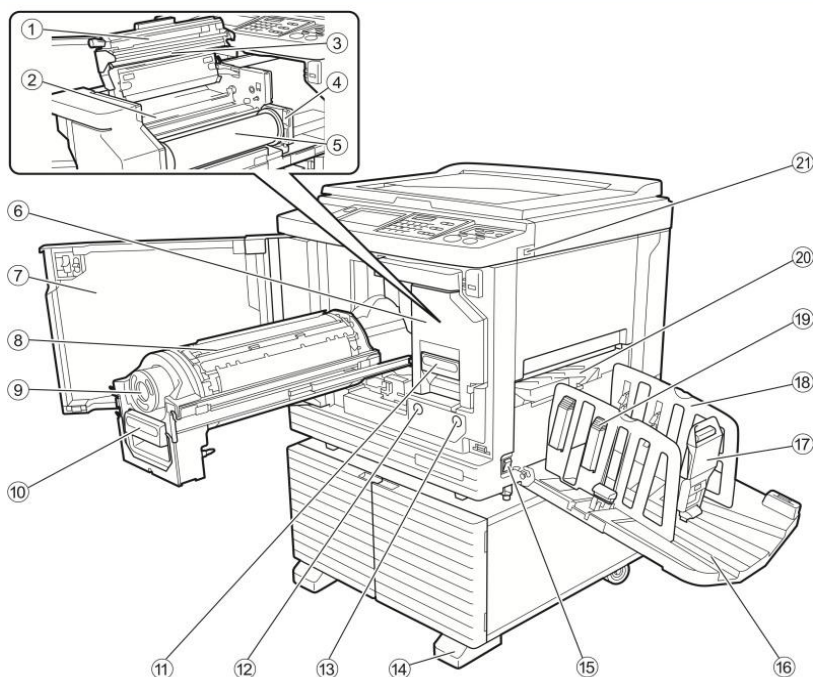
パソコンと接続するためのUSBケーブルを装着します。

⑬ LAN コネクター (📖 12)

ネットワークに接続するためのイーサネットケーブルを装着します。

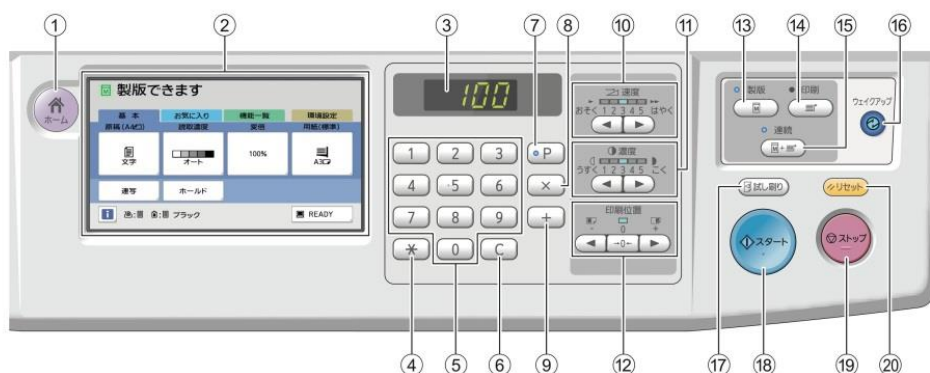
各部の名称と働き(排紙側)

排紙側



- ① 製版ユニットカバー (☞ 132)
- ② マスターガイド (☞ 132)
- ③ サーマルヘッド (☞ 142)
- ④ マスターロールストッパー (☞ 132)
セットしたマスターロールを固定します。
- ⑤ マスター (☞ 131)
- ⑥ 製版ユニット (☞ 131)
①～⑤をご覧ください。
- ⑦ 前カバー (☞ 131)
- ⑧ ドラム (☞ 137)
- ⑨ インクボトル (☞ 134)
- ⑩ ドラムレバー (☞ 137)
レバーを握ってドラムを引き出します。
- ⑪ 製版ユニットレバー (☞ 131)
レバーを握って製版ユニットを引き出します。
- ⑫ ドラム OK ボタン (☞ 137)
ボタン点灯時に、ドラムを引き出せます。
消灯しているときは、ボタンを押して点灯させてから引き出してください。
- ⑬ 製版ユニット OK ボタン (☞ 131)
ボタン点灯時に、製版ユニットを引き出せます。
消灯しているときは、ボタンを押して点灯させてから引き出してください。
- ⑭ 補助足
- ⑮ 電源スイッチ (☞ 32)
電源の ON/OFF を切り替えます。
- ⑯ 排紙台 (☞ 29)
印刷物が排出されます。
- ⑰ ストッパー (☞ 29)
スライドさせて、用紙のサイズに合わせます。
- ⑱ 排紙フェンス (☞ 29)
スライドさせて、用紙のサイズに合わせます。
- ⑲ 紙揃えプレートノブ (☞ 29)
ノブを押すと、紙揃えプレートが出ます。
印刷物の紙揃えを良くします。
- ⑳ 排紙ウイング (☞ 75)
- ㉑ USB スロット (☞ 39)
認証用またはプリント用の USB メモリーを挿入します。

操作パネル



- ① **【ホーム】キー (82)**
[ホーム] 画面を表示させるときに押します。
- ② **タッチパネル (22)**
- ③ **枚数カウンター**
印刷枚数や各種設定の入力値が表示されます。
- ④ **【*】キー**
[メモリー] (83) を呼び出すときや、[プログラム] (79) で項目間を移動するときなどに押します。
- ⑤ **テンキー**
印刷枚数や各種設定値を入力するときを押します。
- ⑥ **【C】キー**
入力した文字や数字を取り消すときに押します。
- ⑦ **【P (プログラム)】キー (79)**
[プログラム] を呼び出すときに押します。
[プログラム] が ON のときは、キー上のランプが点灯します。
- ⑧ **【×】キー**
[プログラム] (79) で項目間を移動するときを押します。
- ⑨ **【+】キー**
[プログラム] (79) で項目間を移動するときを押します。
- ⑩ **印刷速度調節キー (66)**
印刷速度を調節するときを押します。キー上部のランプに、そのときの速度が表示されます。
- ⑪ **印刷濃度調節キー (67)**
印刷濃度を調節するときを押します。キー上部のランプに、そのときの印刷濃度が表示されます。
- ⑫ **印刷位置調整キー (68)**
製版後、天地方向の印刷位置を調整するときを押します。
- ⑬ **【製版】キー (32)**
製版基本画面に切り替えるときに押します。
- ⑭ **【印刷】キー**
印刷基本画面に切り替えるときに押します。
- ⑮ **【連続】キー (26)**
[連続] の ON/OFF を切り替えるときに押します。
[連続] ON のときは、キーの上側のランプが点灯します。
- ⑯ **【ウェイクアップ】キー**
 - ・本機がスリープ (節電) 状態のときは、キーが点灯します。押すと、使用可能な状態になります。
 - ・認証機能 (115) が有効な場合、認証されている状態のときにキー全体が点灯します。押すと、認証が解除されます。
- ⑰ **【試し刷り】キー (32)**
試し刷りをするときを押します。
- ⑱ **【スタート】キー**
製版や印刷を開始するときや、各種動作を実行するときを押します。
キー上のランプは、動作できるときは点灯、動作できないときは消灯しています。
- ⑲ **【ストップ】キー**
実行中の動作を中止するときを押します。
ただし、製版動作中は、製版終了後に停止します。
- ⑳ **【リセット】キー**
現在の設定を初期値に戻すときや、トラブル処理後にエラー表示を解除するときなどに押します。

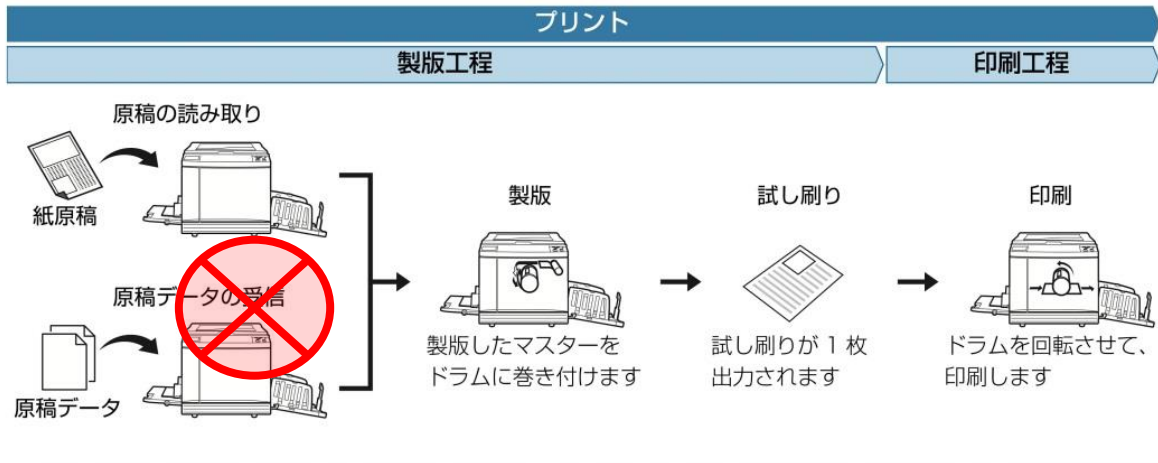
プリントの流れ (製版と印刷)

「製版」と「印刷」

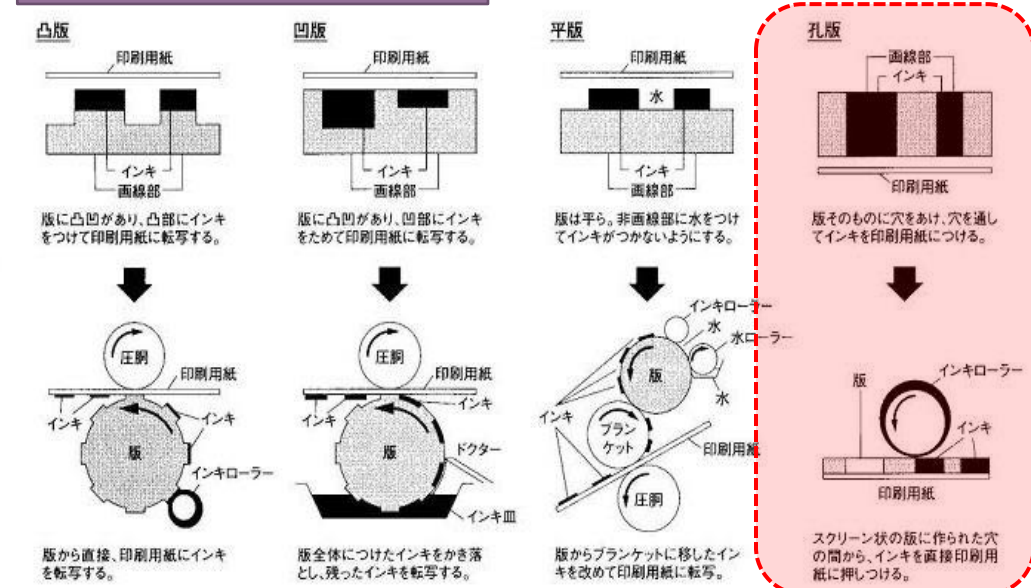
本機は、孔版印刷方式のデジタル印刷機です。孔版印刷とは、印刷の元となるマスター（版）に細かい孔（あな）を開け、そこから押し出したインクを用紙に転写する印刷方式です。

孔版印刷では、マスターを作ることを「製版」、製版されたマスターを通してインクが染み出し、用紙に画像が転写されることを「印刷」と呼びます。

また、本書では、この「製版」と「印刷」の工程をまとめて「プリント」と呼びます。



(参考) 印刷版式の原理と印刷方法



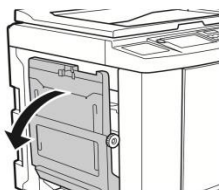
プリント前の準備① (給紙台と用紙のセット)

プリント前の準備

給紙台と用紙のセット

1 給紙台を開く

給紙台に手を添えたまま、止まるまで開きます。



2 給紙台に用紙を置く

用紙は、印刷する面を上にしします。用紙をセットする向きは、原稿の向きと合わせます。

(☞ 31 「原稿をセットする」)



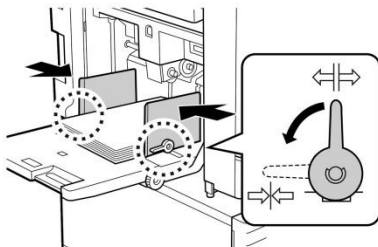
- ▶ 不適切な用紙の使用や、サイズが異なる用紙の混載はしないでください。紙づまりや故障の原因になります。

(☞ 14 「用紙について」)

3 給紙フェンスを調節する

給紙フェンスの左右にあるロックレバーを立てると、給紙フェンスを手でスライドできます。

給紙フェンスを用紙にぴったりと合わせた後、左右のロックレバーを倒して固定します。

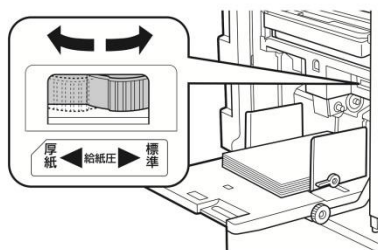


- ▶ 本機は、給紙フェンスの位置によって用紙サイズを識別しています。給紙フェンスを用紙にぴったりと合わせていないと、用紙サイズが正しく識別されません。

- ▶ 不定形サイズの用紙を使用する場合は、操作パネルで用紙サイズを指定してください。(☞ 53 「不定形の用紙を使う」【用紙サイズ】)

4 給紙圧を調節する

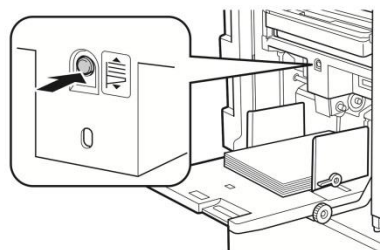
用紙の紙質に合わせて、給紙圧レバーを切り替えます。



レバー	紙質
標準	理想用紙、更紙、上質紙など
厚紙	画用紙などの厚紙、滑りやすい用紙

■ 用紙の追加と載せ替え

印刷の途中で用紙の追加や載せ替えを行うときは、給紙台上下ボタン (☞ 18) を押します。給紙台が下がり、用紙の出し入れをしやすくなります。



- ▶ 紙質が異なる用紙に載せ替えたときは、給紙圧レバーを切り替えてください。
- ▶ サイズが異なる用紙に載せ替えたときは、排紙フェンスとストッパーも調節してください。



- ▶ 用紙がなくなったときや用紙をすべて取り除いたときは、給紙台が自動で最下部まで下がります。

■ 給紙台の閉じかた

1 用紙をすべて取り除く

用紙を取り除いた後、給紙台が最下部まで下がったことを確認します。

プリント後の片付け② (給紙台の閉じ方)

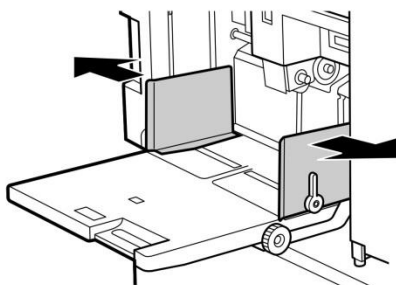
■ 給紙台の閉じかた

1 用紙をすべて取り除く

用紙を取り除いた後、給紙台が最下部まで下がったことを確認します。

2 給紙フェンスを端まで広げる

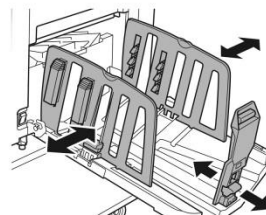
給紙フェンスのロックレバーを立て、給紙フェンスを手でスライドさせます。



3 給紙台を閉じる

プリント前の準備③ (排紙台のセット)

ストッパーは、定形サイズの位置でカチカチと止まります。



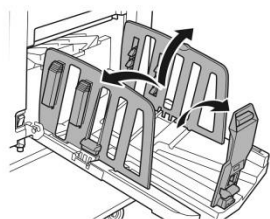
排紙台のセット

1 排紙台を開く

排紙台に手を添えたまま、止まるまで開きます。



2 排紙フェンスとストッパーを立てる



3 排紙フェンスとストッパーを用紙サイズに合わせる

排紙フェンスとストッパーは、下部を持ってスライドします。

排紙台についている目盛を目安として調節します。

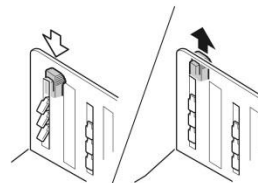


- ▶ 厚紙を使用するときは、排紙フェンスを用紙の幅より少し広めにセットしてください。
- ▶ 排紙フェンスの最適な位置は、紙質、印刷速度、使用環境などによって異なります。排紙台についている目盛は目安とし、印刷物の紙揃え状態に応じて排紙フェンスの位置を調整してください。
- ▶ 給紙台の左右位置を調整した場合は、排紙フェンスの位置も合わせてください。給紙台と排紙フェンスの位置が合っていないと、紙づまりの原因になります。

4 紙揃えプレートを調節する

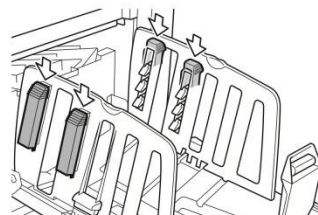
印刷物が揃うように、用紙に合わせて紙揃えプレートを調節します。

- 紙揃えプレートを出すときは、紙揃えプレートノブを押します。
- 紙揃えプレートをたたむときは、紙揃えプレートノブを引き上げます。



■ 通常の場合

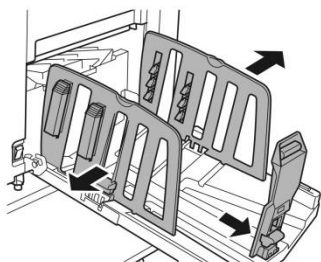
4つの紙揃えプレートをすべて出します。



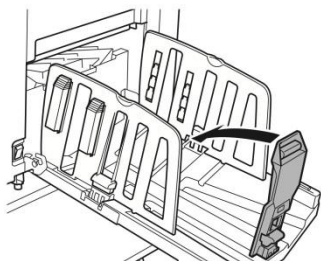
プリント後の片付け④ (排紙台の閉じ方)

■ 排紙台の閉じかた

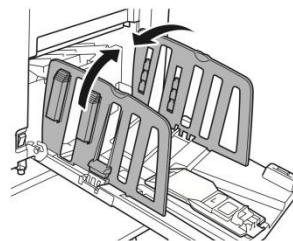
- 1 印刷物をすべて取り除く
- 2 排紙フェンスとストッパーを端まで広げる



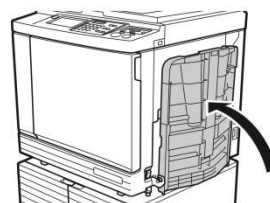
- 3 紙揃えプレートをすべてたたむ
- 4 ストッパーを内側に倒す



- 5 排紙フェンスを内側に倒す



- 6 排紙台を閉じる



紙原稿をセットする

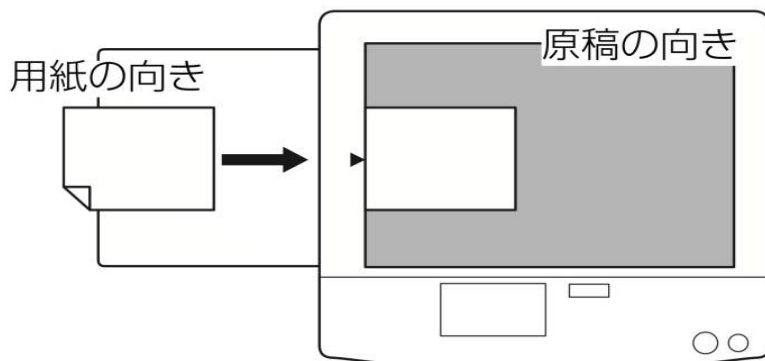
原稿をセットする

原稿台ガラスまたは自動原稿送り装置（オプション）を使って、原稿を読み取ることができます。

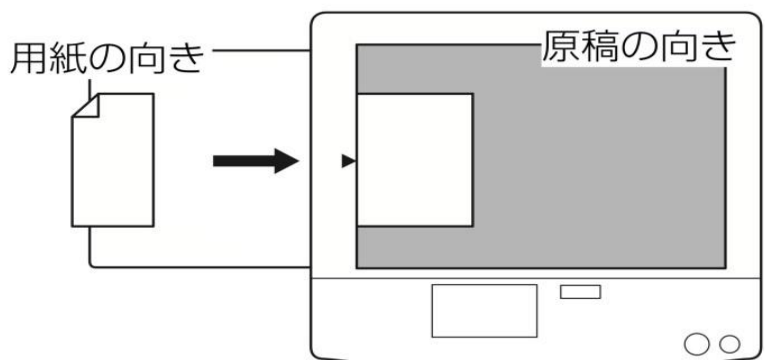
■ 原稿と用紙の向きの関係

原稿と用紙の向きは、以下のように合わせます。

短辺給紙



長辺給紙



紙原稿をプリントする

紙原稿をプリントする

ここでは、紙の原稿を読み取ってプリントする操作手順を説明します。

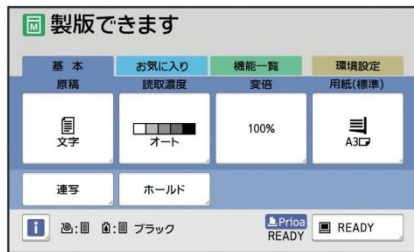
1 本機の電源が ON になっていることを確認する

電源スイッチの [1] を押します。

参考 ▶ 認証画面 (☐ 22) が表示された場合は、画面の指示に従ってください。

2 製版基本画面が表示されていることを確認する

製版基本画面以外が表示されている場合は、[製版] キー (☐ 21) を押します。



3 原稿をセットする

(☐ 31 「原稿をセットする」)

参考 ▶ 原稿を自動原稿送り装置にセットした場合、製版基本画面の「原稿」に、セットした原稿のサイズが表示されます。セットした原稿と異なるサイズが表示されている場合は、再度セットします。

4 用紙を確認する

(☐ 28 「給紙台と用紙のセット」)

参考 ▶ 製版基本画面の「用紙」に、セットした用紙のサイズが表示されます。セットした用紙と異なるサイズが表示されている場合は、再度セットします。
▶ 製版基本画面の「用紙」の横に、給紙圧レバーの位置 (☐ 28) が表示されます。

5 排紙台を確認する

(☐ 29 「排紙台のセット」)

6 [連続] の設定を確認する

(☐ 26 「[連続] とは」)

参考 ▶ 自動原稿送り装置 (オプション) に原稿をセットすると、[連続] が自動的に ON になります。
[環境設定] の [AF 連続自動設定] (☐ 106) で、初期設定を変更できます。

7 製版条件を設定する

(☐ 44 「製版するときを設定する機能」)

(☐ 78 「便利な機能」)

8 テンキーで印刷枚数を入力する

重要 ▶ 連携機 Prioa (別売) を接続してお使いの場合、印刷枚数に応じて出力先が切り替わる [自動振分] 機能が働きます。
(☐ 98 「連携機を利用する」)

9 [スタート] キーを押す

製版が開始され、試し刷りが 1 枚排出されます。

参考 ▶ アイドリング (インクをなじませる動作) が自動的に実行されることがあります。

10 印刷条件を設定する

試し刷りを見て、印刷位置や濃度などを確認します。

(☐ 66 「印刷するときを設定する機能」)

参考 ▶ [試し刷り] キーを押すと、再度試し刷りで仕上がりを確認できます。

▶ 長期間使用していないとドラム上のインクが乾き、プリントしたときに色がかすれたり薄くなったりすることがあります。その場合は、インクをなじませるため、何枚か試し刷りをしてください。[試し刷り] キーを押しつづけると、連続して試し刷りできます。

11 [スタート] キーを押す

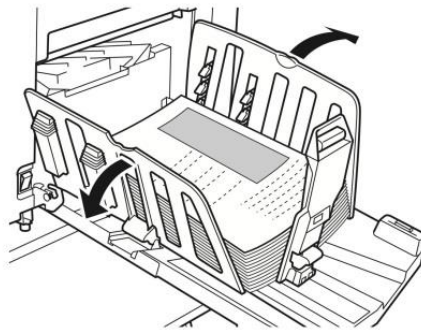
印刷が開始されます。

参考 ▶ 印刷を中断したいときは、[ストップ] キーを押します。

印刷物を取り出す

12 印刷物を取り出す

排紙フェンスを外側に倒すと、印刷物を取り出しやすくなります。



参考

- ▶ 追加印刷したい場合は、印刷枚数を入力して [スタート] キーを押します。
- ▶ 次の原稿の製版に移りたい場合は、手順 3 から繰り返します。